

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	平成 28 年度
氏名	横田 美佳	指導教員 (主査)	板山 稔 (安齋 ひとみ)

論文題目	24 時間体制の訪問看護ステーションに勤務する看護職の職業性ストレスの要因 —感情労働およびコミュニケーション・スキルとの関連—
------	---

本文概要

【目的】訪問看護ステーションにおいて、少人数で 24 時間体制を構築運営することは人間的にも厳しい現状でありストレスからメンタルヘルスへの影響が危惧される。本研究は、24 時間体制による訪問看護師が抱えている職業上のストレスについて、その特性および、職業性ストレス、感情労働、コミュニケーション・スキルと心理的・身体的ストレス反応との関連要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】訪問看護師 1,800 名を対象に、職業性ストレス (BJSQ)、感情労働 (ELIN)、コミュニケーション・スキル (ENDCOREs) について、郵送法による任意の無記名自記式質問紙調査を実施した。分析は、全データを 24 時間対応の有無で分割し、対象の特性と BJSQ、ELIN、ENDCOREs の特徴およびストレス反応との関連については、 χ^2 検定、下位尺度間の相関、Mann-Whitney の U 検定、Kruskal Wallis 検定を行い、多重比較は Bonferroni の訂正にて p 値を調整した。ストレスに影響を及ぼす要因については、心理的・身体的ストレス反応の高低を従属変数としたロジスティック回帰分析を実施した。本件に関する利益相反はなく、目白大学倫理審査委員会の承認を得た後に実施した。

【結果】426 名 (回収率 23.7%, 有効回答率 99.8%) を分析対象とした。24 時間対応「している」者 (352 名, 82.8%) では、40~50 歳代が 79% を占め、BJSQ 下位尺度の「心理的な量的負担」が高いと有意にストレスが高くなり ($p<0.05$)、多重比較の身体的ストレス反応では訪問看護師養成講習の受講および職場外での研修をしていない者が有意に高かった ($p<0.05$)。相関では、ELIN は正の相関がみられ感情労働得点が高いとストレス反応も高くなり、ENDCOREs は逆に負の相関がみられコミュニケーション・スキルを活用しないとストレス反応が高くなった。ロジスティック回帰分析においては、心理的ストレス反応は「探索的理解 (オッズ比 0.92, 0.87-0.98)」、「表出抑制 (オッズ比 1.13, 1.04-1.23)」と有意な関連を、身体的ストレス反応は「探索的理解 (オッズ比 1.06, 1.01-1.12)」、「ケアの表現 (オッズ比 0.85, 0.75-0.96)」、「深層適応 (オッズ比 1.22, 1.07-1.39)」と有意な関連を示した。

【考察】24 時間対応「している」者は、「表出抑制」が高く複数の心理的ストレス反応に影響を及ぼすとメンタルヘルス不調に繋がる可能性がある。24 時間体制により夜間休日待機が多い訪問看護師の研修体制を見直し、職場環境の改善とともに研修や講習会等の機会を増やすことは「ケアの表現」を高め、メンタルヘルス不調の未然防止および身体的な反応の表出抑制に繋がると推測される。

【結論】ELIN 下位尺度の「表出抑制」が高く「探索的理解」が低下すると、感情管理ができず複数の心理的ストレス反応を表出させ、「ケアの表現」が低下すると技能の活用度が下がり身体的負担が増強することが示唆された。

【Key words】24 時間対応、訪問看護、職業性ストレス、感情労働、コミュニケーション・スキル